

人文学・社会科学の振興について

1. 趣旨等

人文学・社会科学の振興について、今期（第 9 期）の学術分科会では、「自然科学とは異なる特徴を踏まえた評価の在り方や、先導的な共同研究を推進する事業の検証・改善等について、人文学・社会科学の内外の動向も踏まえつつ、検討を行う」こととしている（平成 29 年 1 月 17 日学術分科会決定）。

我が国が「超スマート社会（Society5.0）」の実現や「SDGs」への対応等を目指す上でも、人文学・社会科学に対する期待とともに、社会に対する説明責任が一層高まっていることも踏まえ、学術分科会において、中長期的な視点も含め、人文学・社会科学の課題や振興方策等について審議する。

2. 審議事項（案）

- ・ 人文学・社会科学の特性・意義
- ・ 過去の審議会報告等のフォローアップ
- ・ 人文学・社会科学の具体的取組と課題、改善方策
（日本学術振興会の課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業、大学・大学共同利用機関法人の特色ある取組 など）
- ・ 人文学・社会科学の国内外の動向
- ・ 人文学・社会科学の特性を踏まえた評価の在り方 など

3. スケジュール

- | | |
|----------|-------------------------|
| 7 月 3 日 | 今後の審議事項等について |
| 8 月 22 日 | 委員又は外部有識者からのヒアリングに基づき審議 |

年内 月 1 回程度開催

平成 31 年

- | | |
|---------|---------------------------------|
| 1 月-2 月 | 審議まとめ（第 9 期の学術分科会における議論のまとめに反映） |
|---------|---------------------------------|

用語解説

○ELSI (Ethical, Legal and Social Issues)

新しい科学技術の分野の研究開発における倫理的・法制度的・社会的課題

(文部科学省 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 科学技術社会連携委員会)

○SDGs (Sustainable Development Goals)

2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標 (17の目標)。

日本では、2016年12月に「持続可能な開発目標 (SDGs) 実施指針」を決定。SDGsの17の目標を再編し、8つの優先課題と、140の国内外の具体的な施策及び指標を決定。

「世界を変えるための17の目標」

1. 貧困をなくそう	2. 飢餓をゼロに	3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに	5. ジェンダー平等を実現しよう	6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を	14. 海の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に	17. パートナーシップで目標を達成しよう	

(外務省ホームページより)

8つの優先課題と具体的施策の例

①あらゆる人々の活躍の推進

一億総活躍社会の実現／女性活躍の推進／子供の貧困対策／障害者の自立と社会参加支援／教育の充実

②健康・長寿の達成

薬剤耐性対策／途上国の感染症対策や保健システム強化／公衆衛生危機への対応／アジアの高齢化への対応

③成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション

有望市場の創出／農山漁村の振興／生産性向上／科学技術イノベーション／持続可能な都市

④持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備

国土強靱化の推進・防災／水資源開発・水循環の取組／質の高いインフラ投資の推進

⑤省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会

省・再生可能エネルギーの導入・国際展開の推進／気候変動対策／循環型社会の構築

⑥生物多様性、森林、海洋等の環境の保全

環境汚染への対応／生物多様性の保全／持続可能な森林・海洋・陸上資源

⑦平和と安全・安心社会の実現

組織犯罪・人身取引・児童虐待等の対策推進／平和構築・復興支援／法の支配の促進

⑧SDGs 実施推進の体制と手段

マルチステークホルダーパートナーシップ／国際協力におけるSDGsの主流化／途上国のSDGs実施体制支援

(外務省ホームページより)

○Society5.0

サイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会 (Society)

※ 狩猟社会 (Society1.0)、農耕社会 (Society2.0)、工業社会 (Society3.0)、情報社会 (Society4.0)

に続く、新たな社会を指すもので第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱

(内閣府ホームページより)